



「あいつゲイだって」(松岡宗嗣著)を読んで

高橋 司 たかはし・つかさ

弁護士。1963年生まれ。北海道大学大学院法学研究科修了。「公事宿法律事務所」代表。

この本はアウティングについて学べる本である。「アウティング」とは、本人の「性のあり方」を同意なく第三者に暴露すること」をいう。また、この『性のあり方』とは、主に性的マイノリティー当事者の性的指向(恋愛や性的な関心がどの性別に向く

か、向かないか)や性自認(自分の性別をどのように認識するか)などと指す。我々の社会はシスジェンダー(性自認と生まれ持った性別が一致している人の男女二元論で、かつ、異性愛を前提とすると松岡氏はいる。従って、たとえば、同性愛者は、外部(社会)のみならず、自らの存在を普通ではないもの、異常なもの、足りないもの、気持ち悪いものだという烙印を自分の心中に押し込み、深い孤独感に苛まれて生きていく。そういう同性愛者であっても、性的指向や性自認といった自らの属性を信頼すべき他者に伝えた上で良好な人間関係を築きたいと強く思い、他人に開示したいと思う。これをカミングアウトという。しかし、カミングアウトされた側の行動として実際に、同僚から「気持ちが悪い」と言われたり、教師から「同性愛は他の生徒にうつる」「それは不純な交際だ」「同性愛を治さないと進級させられない」と言われた事例がある。つまり、性的マイノリティーであることを他人に開示することは、結局、本人が希望するような「より良好な人間関係を構築することにつながらないばかりか、その伝えた相手との人間関係を激しく変えてしまい、侮蔑の対象となったり、奇異な目で見られるようになることも多い。さらに、その相手方が本人の同意なく

得ない状況に陥るケースも多い。そういう中で、一橋大学アカウティング事件が起き、平成27年8月24日、一橋大学法科大学院の学生が校舎から転落して自死した。この事件は報道されているところによれば、ある同性愛者の男性が同性の同級生を好きになり、LINEにてその気持ちを伝えたところ、その相手方も「恋愛対象としては見ることはできないが、これからも仲良くしたい」と伝えてくれて、その後の関係も一時良好であったという。しかし、同性愛者の男性は「おれのことが嫌いになつた?」というLINEを送信したりするなど、「普通の友人以上」に連絡が続いてきたことから、告白された男性が困惑し精神的にも不安定となり、夜も眠れなくなるなどの症状も出るようになった。告白された男性は、同性愛者の男性への対応方法に苦慮する中で、「実は自分は同性愛者に対し偏見がある」のではないかと悩むようになり、それを誰にも相談できないまま時間が経過しつづけに一橋大学法科大学院のLINEグループにこれを吐露することとなつてしま

他者に暴露することで、本人は自らが属する会社や学校、親類縁者や地域社会からのいじめやハラスメントを受け、差別や偏見による被害を受け続けることで精神疾患に罹患し、また、退社、退学、転居などをせざるを得ない状況に陥るケースも多い。そういう中で、一橋大学アカウティング事件が起き、平成27年8月24日、一橋大学法科大学院の学生が校舎から転落して自死した。この事件は報道されているところによれば、ある同性愛者の男性が同性の同級生を好きになり、LINEにてその気持ちを伝えたところ、その相手方も「恋愛対象としては見ることはできないが、これからも仲良くしたい」と伝えてくれて、その後の関係も一時良好であったという。しかし、同性愛者の男性は「おれのことが嫌いになつた?」というLINEを送信したりするなど、「普通の友人以上」に連絡が続いてきたことから、告白された男性が困惑し精神的にも不安定となることは明らかであると判示したことは大きな進歩である。また、一橋大学が所在する東京都国立市が平成29年12月に条例と制定し、その中で、性的指向、性自認等に関する公表の自由が個人の権利として保障されることを明記したこと、その流れが徐々に我が国に広がっていることは特記されるべき点であろう。